

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.170

2007年7月

第48回名大祭「彩幻～サイゲン～」が開催される



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 目次

### ●ニュース

第48回名大祭「彩幻〜サイゲン〜」が開催される	3
北京名古屋大学同窓会の設立総会を開催	4
平野総長が南京大学設立105周年記念式典に出席	5
山本理事が同済大学設立100周年記念式典に出席	6
平成19年度グローバルCOEプログラムに採択される	7
平成19年度科学技術振興調整費新規課題に採択される	8
藤原文部科学省国立大学法人支援課長が本学を視察	8
男女共同参画セミナー「日本人女性研究者、アメリカで生き抜く！」を開催	9
平成19年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修を実施	9
第28、29回防災アカデミーを開催	10
第2回インターナショナル・アドバイザリーボード報告書を郷議長が提出	10
第13回経営協議会を開催	11
春季キャンパスクリーンを実施	11

### ●知の先端

吸乳刺激が母親の卵巣の働きを抑制する —新しい神経ペプチド、メタスチンの役割—	12
東村 博子（大学院生命農学研究科准教授）	

### ●学生の元気

大学は小さな世界、スモールワールド・コーヒーアワー !!	14
山田 昌孝（工学部物理工学科4年）	
渡辺 友莉（文学部人文学科3年）	

### ●部局ニュース

第6回名古屋ビジネスセミナーを開催	15
公開講座「日本語の魅力」を開催	15
「ロボットを通じた人の理解：文系と理系の往復運動」を開催	16
欧州非干渉散乱レーダー科学協会評議会を開催	16
2007年度第1、2回オープンセミナーを開催	17
博物館が第71回特別講演会を開催	17
博物館野外観察園の見学会を開催	18
「フラワーアレンジメント講座」を実施	18

### ●名大を表敬訪問された方々

	19
--	----

### ●受賞者一覧

	19
--	----

### ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成19年5月16日～6月15日

	23
--	----

### ●INFORMATION

平成19年度名古屋大学公開講座	26
-----------------	----

### ●イベントカレンダー

	28
--	----

### ●ちょっと名大史

瀧川文庫—瀧川幸辰博士の蔵書—	32
-----------------	----

# 第48回名大祭「彩幻〜サイゲン〜」が開催される





第48回名大祭が、6月7日(木)から10日(日)までの4日間、「彩幻～サイゲン～」をテーマに開催されました。今年のテーマである「彩幻～サイゲン～」には、「名大祭では普段の大学とは違う、“彩り豊かな幻”が現れる」という意味が込められています。

5月20日(日)に行われた毎年恒例のプレ企画「仮装行列2007～近頃あたし仮装したい～」では好天に恵まれ、名古屋市立東港中学校マーチングバンド部とともに名大祭の宣伝をしながら、栄の大通りを練り歩きました。

また、6月1日(金)から2日(土)にかけて行われた「徹夜でスケート2007～彩り溢れる幻想空間～」には例年を上回る学生が訪れ、名大祭本番へ向けての雰囲気盛り上げていました。

今年は、豊田講堂が改修工事で使用できないため、第3グリーンベルトに

メインステージが設置されました。期間中は、初日以外はあいにく雨に見舞われ、野外での企画がいくつか中止になるなど残念な場面もありましたが、時折のぞく晴れ間をぬって、広大なキャンパスの至るところで様々な企画が行われました。

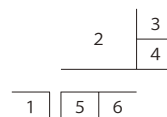
メインステージでは、「第2回盆踊り～合い言葉は“盆 voyage!!”～」が開催され、近隣の住民の方々も浴衣を着て参加し、学生と一緒に輪になって踊りを楽しみました。第2・3グリーンベルトで行われた「サークル&部活対抗No.1争奪戦」では、様々な競技で競い合い、大いに盛り上がりました。さらに、例年好評を博しているライブ企画では、様々なジャンルのバンドが雨をものと思わず、日頃の練習の成果を披露していました。

グリーンベルト両側に設けられた

「模擬店ストリート」には140店舗以上の模擬店が並び、それぞれの店舗が熱心に呼び込みを行い、大変な賑わいを見せていました。他にも体脂肪、骨密度等の身体測定や心理テストを体験できる「模擬病院」、坂の多いキャンパスで健脚を競う「山田杯争奪駅伝大会」、茶道部が来場者にお茶を振る舞う「名大祭茶会」、さらには禁煙無料相談会など、多様な企画が行われました。

研究公開など学術的な企画も多数開催され、高校生をはじめ多くの参加者が、普段見ることのできない研究の実演に興味深げに見学していました。

最終日には、朝からの雨が上がり雲間から夕日がのぞく中、後夜祭「彩GOの宴」が行われ、来場者は、毎年恒例の火舞の演技を見ながら名大祭の最後の余韻に浸っていました。



- 1 模擬店ストリート
- 2 後夜祭「彩GOの宴」
- 3 メインステージでのイベントの様子
- 4 軽音楽部エーデルレーテジャズオーケストラによるライブ
- 5 思い思いに楽しむ来場者
- 6 ごみステーション

## 北京名古屋大学同窓会の設立総会を開催

北京名古屋大学同窓会の設立総会及び懇親会が、5月21日(月)午後7時から、北京市内の燕山大酒店において開催されました。本同窓会は、本学全学同窓会の海外支部としては5つめ、中国国内では上海に続いて2つめとなります。

総会は、本学からは平野総長、伊藤全学同窓会代表幹事、



あいさつする潘会長



懇親会で乾杯の発声をする総長



同窓会旗授与の様子

中野富夫同連携委員会委員長らが出席し、元留学生を中心に総勢50名を超える出席者がありました。

まず、馬智亮 清華大学教授の司会のもと、潘偉 北京名古屋大学同窓会会長（清華大学教授）から「同窓会の設立を喜んでおり、大学や同窓会からの情報を得て今後も交流していきたい」とのあいさつがありました。続いて、平野総長から同窓会旗の授与が行われた後、本学の状況が紹介され、「国際交流、留学生教育に全力であたりたい」とのあいさつがありました。

その後、同会場で懇親会が行われ、その中で、伊藤代表幹事から全学同窓会の設立経緯や理念、海外支部の設立状況などの説明がありました。また、唐駿 上海名古屋大学同窓会会長からの祝辞も紹介されました。多くの方から留学時の思い出話が語られ、懇親会は予定の時間を超え、盛況のうちに閉会しました。参加者は、散会後も名残を惜しむかのようにロビーなどで話を続けていました。

北京名古屋大学同窓会では、今後、大学や同窓会資料を会員へ配付し、会合を行っていくこととしています。



記念撮影

## 平野総長が南京大学設立105周年記念式典に出席



学長フォーラムで講演する平野総長

平野総長は、5月18日(金)から23日(水)までの6日間、中国を訪問し、南京大学の設立105周年記念式典に出席しました。

20日に南京に到着した総長一行は、式典に先立ち陳駿 南京大学学長と会談を行い、熱烈な歓迎を受けました。総長と陳学長は、1982年に大学間学术交流協定を締結して以来の古い友人として関係を大事にし、今後 AC21 (国際学術コンソーシアム) を核として学生交流を始めとする交流を更に発展させていくことを確認しました。

翌21日、「国際的、革新的な人材の育成」をテーマに行われた学長フォーラムでは、主催者である陳学長に引き続き、総長からプレゼンテーションが行われました。総長は、『学』とは『Humanity (人間性)』そのものであり、大学における人材育成とは、優れた人間性を有する教育者集団によって物質的・経済的側面に偏ることなく、精神的・文化的側面も充実した、バランスのとれた人間性ある豊かな知の担い手を育てることにある」というかねてからの持論を述べるとともに、自らが実践してきた本学における取り組みの事例を中心に紹介し、出席者から大きな反響がありました。

また、総長は、今回の式典に前後して、本学と協定を締結している中国国内の主要な大学を訪問し、各学長等と会談を行いました。上海では、王 復旦大学学長、張 上海交通大学学長、万 同济大学学長 (現科学技術大臣) らと、北京名古屋大学同窓会設立総会に出席するために訪問した北京では、許 北京大学学長、謝 清華大学副学長、徐 中国政法大学学長らと会談を行いました。

総長は、共同研究やセミナーの開催、AC21の活動への理解と積極的な参加、中国政府派遣留学生5000人計画に対する本学の授業料免除措置の紹介及び各大学からの優秀な学生の派遣等について提案や説明を行い、各大学長と今後の交流関係の強化を約束しました。



陳学長と会談する平野総長 (左)



許学長と会談する平野総長 (左)



万学長に設立100周年の記念品を贈呈する平野総長 (右)



清華大学トヨタ研究センターにて (左から、潘 清華大学教授、平野総長、李教授)

## 山本理事が同済大学設立100周年記念式典に出席

山本理事は、5月17日(木)から20日(日)までの4日間、中国 上海を訪問し、本学の大学間学術交流協定校である同済大学の設立100周年記念式典に出席しました。

初日の17日夜には、上海市内の上海賓館において、我が国をはじめ、世界各国の大学の学長や研究者の参加のもと、同大学主催の歓迎パーティーがあり、席上、山本理事と李永盛 同大学常務副学長が記念品を交換しました。

翌18日には、同大学嘉定キャンパスにおいて、国連環境部、国家環境保護総局及び同大学の共催のもと、100周年記念行事の一環として、「創造と持続可能な発展」と題したフォーラムが開催されました。万鋼 同済大学学長・中国科学技術部長、周正賢 国家環境保護総局長、アヒム・スタイナー 国連事務次長・国連環境計画事務局長からあいさつがあった後、孔慶偉 上海市都市建設投資開発公司総経理、劉小龍 上海張江科学技術園区開発株式会社取締役、ミヒヤエル・ケーニッヒ バイエルグループ・中国有限公司代表取締役、クラウス・ヴェヘラー シーメンスオートメーション&ドライブグループ社長による基調講演が行われました。他にも4部からなる講演が行われ、



来賓招待会での山本理事(右)と万学長(左)



「都市の発展」フォーラム会場での記念撮影(左から2番目が林研究科長、中央が山本理事)

終日にわたり様々な講演が催されました。

19日には、同大学四平キャンパスにおいて、「都市の発展」をテーマにした国際フォーラムが開催されました。開会式では、万学長のあいさつに続いて、韓正 上海市長、ドイツの元首相であるシュレーダー氏らによる基調講演が行われました。「都市空間と環境」と題するセッションでは、山本理事に同行した林環境学研究科長による「成熟、高齢化するアジアの空間発展と環境戦略」と題した講演がありました。同フォーラム終了後、山本理事と林研究科長は、夕刻に開催された同大学主催の来賓招待会に出席しました。

最終日、20日午前中には、同大学設立100周年記念式典が行われ、同大学の教職員、学生、同窓生、各大学の学長、その他関係者など、1万人を超える参加がありました。式典では、李鉄映 中国人民代表大会常務委員会副委員長、韓 上海市長を始めとする政府要人、協定校である大学の学長、校友代表、教員代表から相次いで祝辞が述べられ、日本からは、本学の他に、東北大学、九州大学、熊本大学、徳島大学など、同大学の協定校からの参加がありました。同日午後には、「持続可能な発展と高等教育創新」をテーマにした学長フォーラムが行われ、各大学学長から、グローバル化が進んでいる今、大学が直面する問題とそれに対する改革についての発表があり、同時に意見交換も行われました。

## 平成19年度グローバル COE プログラムに採択される

平成19年度グローバル COE プログラムの選考結果が公表され、本学においては、申請した7件のうち、3件のプログラムが採択されました。

本プログラムは、我が国の大学院の教育研究機能を一層充実・強化し、世界最高水準の研究基盤の下で世界をリードする創造的な人材育成を図るため、国際的に卓越した教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある大学づくりを推進することを目的とするものです。

採択結果について、平野総長は「採択された研究拠点においては、本プログラムの目的にもあるように、拠点において国際的に卓越した研究を展開するとともに、世界で活躍できる若手研究者を育成する。なお、本学の申請に係る個々の研究者は世界レベルの研究水準であると考えている。しかし、採択されなかった拠点については、本学の組織・規模の上で研究者の拠点形成（研究者の組織づくり）の観点からの研究者集積度の課題があったものと受けとめている。今後、本学は我が国を代表する研究重点化大学の一つとして世界をリードするような研究体制の構築に向けて更なる努力を続けていく所存である。」とコメントしました。

なお、申請は、全体で281件（111校）あり、専門家、有識者からなる「グローバル COE プログラム委員会」で審査が行われ、5分野63件（28校）が採択されました。（採択率22.4パーセント）

### 【分野：生命科学】（採択件数13／申請件数55）

プログラム：システム生命科学の展開：生命機能の設計  
 拠点リーダー：近藤 孝男教授（大学院理学研究科）  
 中核となる専攻：大学院理学研究科生命理学専攻

### 【分野：化学、材料科学】（採択件数13／申請件数45）

プログラム：分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成  
 拠点リーダー：渡辺 芳人教授（物質科学国際研究センター）  
 中核となる専攻：大学院理学研究科物質理学専攻（化学系）

### 【分野：人文科学】（採択件数12／申請件数39）

プログラム：テキスト布置の解釈学的研究と教育  
 拠点リーダー：佐藤 彰一教授（大学院文学研究科）  
 中核となる専攻：大学院文学研究科人文学専攻

## 平成19年度科学技術振興調整費新規課題に採択される

文部科学省において一般公募されていた「平成19年度科学技術振興調整費新規課題」が選定され、本学から下記の事業が採択されました。科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って文部科学省が運用を行う、政策誘導型の競争的資金として下記の事項に活用することとなっています。

1. 優れた成果の創出・活用のための科学技術システムの改革
2. 将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等
3. 科学技術活動の国際化の推進

### 【プログラム：女性研究者支援モデル育成】

(採択件数10/応募件数19)

女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として、研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、その能力を十分に発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築するモデルとなる優れた取り組みを支援する。

提案課題名：発展型女性研究者支援名大モデル

代表者：平野眞一総長

## 藤原文部科学省国立大学法人支援課長が本学を視察

藤原 誠文部科学省国立大学法人支援課長が、6月5日(火)、本学を訪問し、学内を視察しました。

まず、昨年度竣工した赤崎記念研究館を訪れ、竹田美和工学研究科教授の案内により、赤崎 勇特別教授の研究業績や青色発光ダイオードの研究開発史等を紹介した1階展示室を見学しました。さらに、同研究館4階において、平成18年度科学技術振興調整費（先端融合領域イノベーション創出拠点の形成）に採択された「分析・診断医工学によ

る予防早期医療の創成」について、本多裕之工学研究科教授より現在の技術レベル及び今後の研究の見通し等に関する説明を受けるとともに、実験室を丁寧に見て回りました。

次に、野依記念物質科学研究館を訪問し、関 一彦理学研究科教授の説明により、野依良治特別教授のノーベル化学賞受賞を紹介するケミストリーギャラリー等を視察し、続いて、屋上に上がり、キャンパス全体を見渡しました。



赤崎記念研究館の見学の様子（左から、竹田教授、藤原課長）



ケミストリーギャラリーの見学の様子（左から、関教授、藤原課長）



## 男女共同参画セミナー 「日本人女性研究者、アメリカで生き抜く！」を開催

男女共同参画セミナー「日本人女性研究者、アメリカで生き抜く！：研究—出産—育児—プロモーションへの調和的戦い」が、6月11日(月)、理学部 A 館256教室において開催されました。当日は、およそ50名の出席者を得て、会場は満員となりました。

講師の鳥居啓子ワシントン大学生物学部准教授は、テニユア（終身在職権）獲得を中心としたアメリカの研究者採用システム、研究室の運営方法、ネイチャーやサイエンスなど著名な学術雑誌への投稿、育児と研究・学務の両立、

大学の出産・育児のサポート体制など多岐にわたり、自身の経験を紹介しつつ、ユーモアも交えて講演しました。講演の中で鳥居准教授は、自分の経験を踏まえて、「よい研究を行うためには優れた人材を集めることが大切であること」そして、「育児中の研究者が共同研究を行う場合に、常に情報やデータを共有し、誰かが欠けても他の人が代替できる体制を作ることの重要性」を強調しました。また、研究と育児との両立の実践例として、著名学術雑誌への投稿論文執筆中には、自身を含めた数名の共同執筆者が妊娠中または乳児の育児中であったというエピソードも紹介されました。

出席者からは活発にコメントや質問があり「研究を遂行するエネルギーに強い感銘を受けた」といった感想も寄せられるなど、充実したセミナーとなりました。



講演する鳥居准教授



会場の様子

## 平成19年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修を実施

平成19年度東海地区国立大学法人等職員基礎研修が、5月21日(月)、22日(火)の2日間、野依記念学術交流館等において実施されました。

同研修は、東海地区国立大学法人等の職員で、新規採用後、勤務年数が1年以上2年未満の者に対し、国立大学法人職員の心構え等を改めて習得させるとともに、共通して必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成することを目的としており、今年度は各機関から対象者99名が参加しました。

コミュニケーション能力の向上やチームワークの重要性を再認識することに重点を置いたカリキュラムに沿って行われた研修では、受講者は、グループ実習など、他機関の職員と協力しながら課題をこなしていく中で、上司への報告・連絡・相談の方法や他の部、課との上手な連携の取り方、効率的なスケジュールの組み方等を学びました。また、今年度から導入したPBI（職業行動調査）により、自分自身の仕事への関わり方について診断、傾向把握を行い、グループ毎にアドバイスをしあうなどの意見交換を行いました。

受講生にとっては、積極的にコミュニケーションを取り、発言することの重要性を理解するとともに、他機関の同期職員と交流する有意義な機会となりました。



研修の様子



閉講式で受講者に修了証書を手渡す岩川総務部長（左）

## 第28、29回防災アカデミーを開催

第28回防災アカデミーが、4月18日(水)、環境総合館レクチャーホールにおいて、災害対策室主催のもと開催されました。今回は、長年NHKで災害報道に取り組んできた小嶋富男前NHK報道局気象災害センター長が、「災害時緊急報道で活躍する放送システム」と題し、災害シーンにおける“一瞬”を伝えるために開発された特殊なビデオカメラや、災害時の緊急報道の実態について、NHKの社内教育用教材等を使ってわかりやすく講演しました。

5月29日(火)には、第29回防災アカデミーが開催され、



第28回防災アカデミーの様子



講演する山岡教授

山岡耕春環境学研究科教授による「どこまでできる地震予知」と題する講演が行われました。地震の発生が切迫していると言われるここ東海地方では、地震予知には大きな期待が寄せられています。しかし実際の地震予知研究が、現在どのくらいのレベルにあり、どのような研究成果が出ているのかを一線の研究者から聞く機会はあまりありません。山岡教授は、自身も執筆・編集に参加した『地震予知の科学』（日本地震学会地震予知検討委員会編、東京大学出版会刊）に基づいて、地震予知のための基礎科学が今、

どのレベルにあるのかを説明しました。講演に引き続き行われた質疑応答は活気を帯び、「アスペリティ」や「摩擦構成則」などの専門的な内容についての理解を深めることができた、という参加者の声も聞かれました。

## 第2回インターナショナル・アドバイザリーボード報告書を郷議長が提出

6月17日(日)、郷通子第2回名古屋大学インターナショナル・アドバイザリーボード（国際諮問委員会）議長が、同委員会の報告書を平野総長に提出しました。

この報告書は、昨年10月に開催された同委員会において、総長から「大学院教育のあり方」についての諮問を受けて行われた議論を基に、提言としてまとめられたものです。



左から、杉山理事、郷議長、平野総長

提出にあたり、郷議長から「委員の方々から大変貴重なコメントをいただいた」等、取りまとめの経緯について説明があり、報告書を受領した総長からは、「非常に意義深い内容の提言をいただき感謝している。本提言を是非今後の大学院教育の改善に活かしたい」旨の言葉が述べられました。

なお、今回の報告書では、以下の観点から様々な提言がなされています。

1. 明確な教育目標に基づいた大学院教育を実現すること。
2. 世界最高水準の教育研究拠点の形成を促進すること。
3. 世界に伍して競争力のある大学院プログラムを作成し、維持すること。

### 【第2回インターナショナル・アドバイザリーボード委員】

郷通子お茶の水女子大学長（議長）

ルイス ジェイ イグナロ UCLA 教授

池端雪浦東京外国語大学長

李 遠哲台湾中央研究院院長

野依良治理化学研究所理事

ロルフ シュテュルナー フライブルク大学法学部長

ミシェル ザンク コレージュ・ド・フランス副学長

※役職名は平成18年10月当時。

## 第13回経営協議会を開催



経営協議会の様子

第13回経営協議会が、6月17日(日)、名古屋市内のホテルを会場として開催されました。

会議では、平野総長のあいさつの後、本学を取り巻く最近の主な動向、平成18事業年度に係る業務の実績に関する報告、平成18年度決算、大学機関別認証評価、本学役員給与規程の一部改正、平成20年度概算要求について、担当理事・副総長から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

続いて、高橋理事から、平成18年度実施法科大学院認証評価(予備評価)評価結果、名古屋大学基金、外部資金の受入状況、本学大学院の進路状況及び充足率並びに学部入学定員充足状況について報告が行われました。

外部委員からは、評価の在り方、概算要求の内容について、貴重なご意見が多数寄せられました。

## 春季キャンパスクリーンを実施



学内清掃に汗を流す職員

大学構内環境美化運動「キャンパスクリーンウィーク」が、名大祭終了後の6月11日(月)から15日(金)まで、全学の教職員及び学生の協力を得て実施されました。

これは、名大祭終了後の構内の環境美化のために、平成4年から毎年実施されているものです。また、キャンパスクリーンウィークの他に、名大祭実行委員会を中心とした学生が、名大祭終了後に清掃等を行い、環境美化に努めています。

本部では、6月13日(水)の午後、約100名の職員が、一斉に東山キャンパス構内及び周辺の市道に分かれて、空き缶・紙くず等の除去、雑草等の刈り取り、不要な立看板・ビラ等の撤去などを行い、爽やかな汗を流しました。

# 吸乳刺激が母親の卵巣の働きを抑制する —新しい神経ペプチド、メタスチンの役割—

東村 博子 大学院生命農学研究科准教授

泌乳は、哺乳類を哺乳類たらしめている重要な生殖の機能のひとつです。生まれた子供は、自ら餌を採れるようになるまでの成長や活動のための栄養のすべてを母親の乳腺でつくられるミルクに依存しています。ミルクの栄養価は高く、またその生産に使うエネルギーは莫大であるため、哺乳類の雌には、泌乳中に次の子供を妊娠しないような仕組みがあります。これは、妊娠と泌乳という多大なエネルギーが必要な2つのイベントを同時進行させないための自然の摂理です。

筆者らは、長年にわたり乳牛のモデルとして泌乳ラットを用い、どのようなメカニズムによって泌乳期の卵巣活動が抑制されるのかという疑問に答えようとしてきました。筆者らの最新の研究により、泌乳期の卵巣活動の抑制には、メタスチンと呼ばれる神経ペプチドが深く関わっていることが分かってきました。

メタスチンは、2001年に武田薬品工業株式会社

の大瀧らによって発見されたペプチドです。このペプチドは、もともと腫瘍転移抑制 (metastasis) 遺伝子として知られていた KiSS-1 遺伝子によりコードされていたため、これに因んでメタスチンと命名されました<sup>†</sup>。その後、このペプチドが、ヒトを含む動物の生殖機能に対して強力な促進作用をもつことや、その受容体である GPR54 遺伝子を欠損したヒトや動物で性成熟に達しないことがわかりました。これらの事例をきっかけとして、メタスチンが哺乳類の生殖機能を第一義的に制御する神経ペプチドとして、世界中の注目を集めるようになり、いま生殖科学の分野で最もホットな話題を提供し続けています。

哺乳類の生殖機能は、視床下部—下垂体—性腺軸と呼ばれる一連のメカニズムによって制御されています。視床下部にある性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH) ニューロンから分泌される GnRH は、下垂体からの性腺刺激ホルモン (GTH)

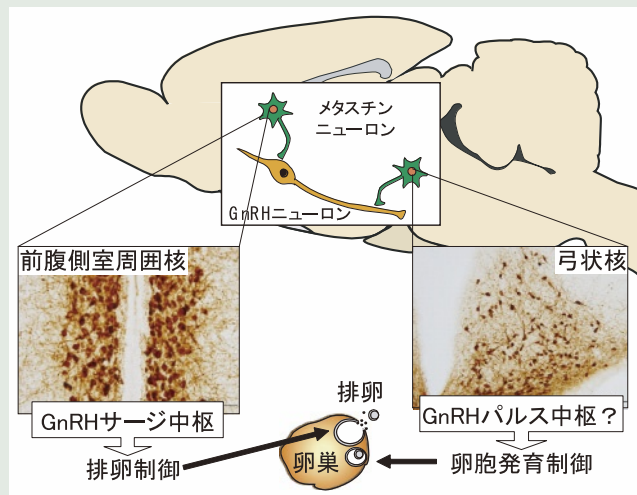


図1. メタスチンニューロン細胞体(写真の茶色に染まった部分)は前腹側室周囲核 (AVPV) と視床下部弓状核 (ARC) に局在している。これまでの研究成果により、AVPV メタスチンニューロンは性腺刺激ホルモン放出ホルモン (GnRH) の大量放出 (サージ) を介して、排卵を制御する中心的な役割を果たすことが分かってきた。一方、ARC のメタスチンニューロンは、卵胞発育を担う基底的な分泌 (GnRH パルス) を制御していると考えられるが、これはまだ証明されていない。

の分泌を介して、性腺の活動を促します。GnRHは36年前に発見された神経ペプチドであり、生殖機能をコントロールする「最上位のホルモン」として、長い間君臨してきました。ところが、メタスチンの発見は、GnRH分泌を制御するさらに上位のホルモンが脳内に存在していたことを示唆する重要なものでした。GnRH分泌には卵胞発育を促進する「パルス状分泌」と、排卵を促す大量放出である「サージ状分泌」があります。メタスチンはこの2つのモードの両方を制御していることが、われわれや他の研究グループによって明らかとなってきました。メタスチンニューロンの細胞体は、脳内の2つの部位（前腹側室周囲核と弓状核、図1）に局在しており、前者はサージを、後者はパルスを制御していると、筆者らは考えています。

さて、泌乳の話に戻しましょう。筆者らは以前、子供が母親の乳頭を吸う刺激、すなわち吸乳刺激が母親のGnRHとGTHのパルス分泌を著しく抑制することを確かめました。つまり乳児が母親の避妊の引き金を引いている事になります。今回筆者らのグループは、吸乳刺激によって弓状核内のメタスチン発現が著しく抑制されていることを、遺伝子とペプチドレベルで確かめました（図2）。すなわち、吸乳刺激はメタスチンニューロンの活動を抑制することにより、GnRH/GTH分泌と卵胞発育を抑制し、母親が次の妊娠をしないようにコントロールしていたわけです。この研究成果は、米国内分泌学会誌 *Endocrinology* 誌への掲載が決定するとすぐにトピックスとして、同学会のニュース記事になり、また中日新聞にも取り上げられました。

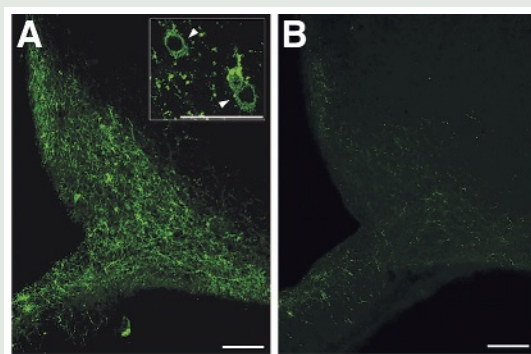


図2. 分娩後に子供を取り除いたラットのARC (A) には、たくさんのメタスチン免疫陽性細胞（写真の緑色の染まった部分）が認められるが、吸乳刺激を受け続けている母親のARC (B) には、ほとんど認められない。泌乳ラットでは、GnRHパルスが抑制され、卵胞発育が抑制されるが、そのきっかけは吸乳刺激によってARCのメタスチンニューロン活動が抑制されることにあると考えられる。Aの右上図は細胞体の拡大図。  
スケールバー：100 μm

メタスチン研究には応用に直結する将来性があります。例えば、スーパーカウとよばれる高泌乳牛には繁殖障害がよく見られます。メタスチン誘導体は、その治療薬として、またヒトの生殖障害の新たな治療法の開発にもつながるかも知れません。

最後に、本研究に協力いただいた武田薬品工業株式会社、埼玉大学、本学生命農学研究科生殖科学研究分野の共同研究者の皆さん、とりわけ山田俊児早稲田大学助手(本学をこの3月に修了)に謝意を表します。

†メタスチンは「キスベプチン」と呼ばれることもありますが、本稿では発見者の命名を尊重して「メタスチン」を用います。

専門：生殖科学、神経内分泌学。農学博士。

1990年米国カンサス大学医学部博士研究員、1991年名古屋大学農学部助手を経て、1998年より同大学大学院生命農学研究科准教授。2004年より大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所客員准教授（併任）。家畜繁殖学会島村賞（1995年）、下垂体研究会吉村賞（2003年）受賞。名古屋大学男女共同参画室員（2003年～）を経て2006年4月より同室長および男女共同参画担当総長補佐

モットー：positive thinking  
ひとこと：研究と男女共同参画関連の仕事の両立は大変ですが、やりがいがあります。いまは理系分野には女性が少ないですが、もっとたくさんの女性研究者が活躍できるはずだと思います。

趣味：エアロビクス

つかむら ひろこ



文学部人文学科3年  
渡辺 友莉  
工学部物理工学科4年  
山田 昌孝

# 大学は小さな世界、スモールワールド・コーヒーアワー!!



2007年5月に開催したコーヒーアワーの集合写真  
「Enjoy ナゴヤ～生活ナビゲーション」というテーマで、約50名の参加者が名古屋での生活を楽しむためのヒントを交換しあった。

“Welcome to the Coffee Hour!”

Small World Coffee Hour（通称：コーヒーアワー）は、全学同窓会の支援を受け、留学生相談室と共に学生チームが中心になって、月に1回、留学生センターのラウンジで開催しているイベントです。当初は留学生と日本人学生の国際交流の場として企画されていましたが、今ではその輪も広がり、外国人研究者等も参加し、キャンパス内の「出逢いと交流の場」になっています。私たちは、多様な文化背景を持つ参加者同士が知り合えるよう、工夫を凝らしたゲームや文化紹介の機会を企画し、コーヒーやお菓子を片手に“気軽に”交流できる空間を演出しています。様々な言語が飛び交い、雰囲気はまるで学生版国際会議のコーヒーアワーです。多くの方々に国際交流の楽しさを共に体験して頂けたらと思っています。

コーヒーアワーで、様々な人と出逢い、語ることで、価値観や視野が広がりました。このような「出逢いのきっかけ」を誰でも体験できたらという想いを込めてコーヒーアワーに取り組んでいます。コーヒーアワーを企画している学生スタッフも、留学生や日本人学生、学部生や大学院生などで構成されている多文化チームのため、スタッフ活動でも多岐に渡る「出逢い」を体験しています。誰でも出逢いのきっかけを持つことができ、ちょっぴり成長できる場、そのような場を今後も提供し続けていきたいです。（渡辺）

コーヒーアワーは私にとって“成長の場”です。もともとコミュニケーションが不得意な私にとって、最初にコーヒーアワーに参加した時はも

う散々で、留学生とろくに会話ができませんでした。そこで原因を考えました。例えば、「等身大の自分以上に良く見せようとしていないか?」「肩に力がはいつているんじゃないか?」そしてその反省を次のコーヒーアワーに活かそうと、勇気をちょっと出してコーヒーアワーに再挑戦しました。不思議なもので、私たちはなりたい自分になれる力があるようです。成長は少しずつですが、続けることで目に見えてきます。理想の自分を頭で思い描くだけよりは、実践を通して学んだほうがよさそうです。名古屋大学のキャンパス内で、楽しみながら実践を通して学んでいける、そんな機会を創ろうと、スタッフの仲間たちと奮闘中です。（山田）

ぜひ皆さまもお気軽に、コーヒーアワーに参加者として、もしくはスタッフとしてご参加ください。



コーヒーアワー学生スタッフチーム  
留学生と日本人学生で構成される多文化チームで毎月のコーヒーアワーを企画している。

やまだ まさたか  
1985年生まれ 愛知県出身  
わたなべ ゆり  
1986年生まれ 愛知県出身

## 第6回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、6月1日(金)、社団法人名古屋銀行協会会議室において、社団法人キタン会と共催で、第6回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。

本セミナーは、大学の地域社会への貢献という時代的要請に応えるため、本学関係者に限定しないオープンなカタ



セミナーの様子

ちでセミナーを開催することにより、経済に関する「知」の共有を通じた地域社会活性化への貢献を目指すもので、毎回、重要な経済問題をテーマに、一流の経済学者、経営者、専門家を講師に迎え、開催しています。

今回は、野崎謙二同センター教授の司会のもと、原田 泰大和総研チーフエコノミストが「アジアの発展と日本経済」について講演しました。まず原田氏が、日本の景気回復の要因を紹介した後、中国を中心とするアジアの発展と日本経済の関係について解説し、相互に利益がある互惠関係のあり方について提言しました。これに対して会場から活発に意見、質問が出され、最後に高桑同センター長から総括のあいさつがありました。

会場には、東海地域の第一線で活躍するビジネス関係者をはじめ、産学官の多様な分野から定員一杯となる約100名の参加者が集まりました。

## 公開講座「日本語の魅力」を開催

●大学院国際言語文化研究科

今年度の大学院国際言語文化研究科公開講座が、6月13日(水)、文系総合館カンファレンスホールにおいて始まりました。

同研究科は、諸言語、諸地域、諸分野の専門家を抱える利点を活かして、数年前から毎年、学際的なテーマで公開講座を開催してきました。今回は、「日本語の魅力」と題



第1回講座で講義を行う粉山教授

して、最終日の7月20日(金)まで、週2回、計12回の講演を行っています。

日本に住む外国人がどんどん増えている中、外国語としての日本語日本文化教育の必要性が年々高まっており、そのような状況を反映してか、書店でも日本語について的一般読者向けの書籍を多く見かけるようになりました。今回は、同研究科の教員だけでなく、留学生センターやエコトピア科学研究所の教員も参加して、言語研究、日本語教育、文化研究、認知科学など様々な分野から日本語の多様な側面について論じています。

第1回は、吉村同研究科長の開講のあいさつに引き続き、粉山洋介留学生センター教授による「日常言語に潜む比喩：言語と認知」と題する講義が行われ、29名の受講者との間に活発な質疑応答がありました。第2回以降も「日本語の魅力」に踏み込んだ様々な講義で、受講者に好評を博しました。

7月15日以降の講義は、下記のとおりです。

- ・「知覚の偏り、判断の偏り」  
外池俊幸エコトピア科学研究所教授（7月18日）
- ・「明治翻訳語の面白さ」  
福田真人国際言語文化研究科教授（7月20日）

## 「ロボットを通した人の理解：文系と理系の往復運動」を開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、6月11日(月)、野依記念学術交流館において、シンポジウム「ロボットを通した人の理解：文系と理系の往復運動」を開催しました。

このシンポジウムは、高齢者をケアする現場でロボットが実用化されようとしている昨今の動きを鑑み開催されたもので、当日は工学系の研究者に限らず、人類学、看護学、



シンポジウムの様子

心理学など幅広い文科系の研究者、さらには民間企業やマスコミ関係者等、35名の参加がありました。

招待講演では、まず、福田敏男工学研究科教授が、「人とロボットの共生とヒューマンサポート」と題して、人とロボットの相補関係の提案、ロボットに関する社会学、経済学、倫理学の必要性についての講演を行いました。続いて、岡田美智男豊橋技術科学大学教授が、「関係論的なロボティクスを目指して」と題して、「他力本願」、「弱さの力」、「手がかかるほどかわいい」等、関係性の具体例を挙げながら相互構成的なロボティクスについて話しました。さらに、渡部信一東北大学教授が、「『教える-学ぶ』の認知科学とロボット開発」と題して、自閉症を抱えたある子どもの発達過程から「学ぶ」メカニズム、師匠ロボットの開発から「教える」メカニズムについて、講演しました。

3名の講演の後、大日方五郎エコトピア科学研究所教授が、「独居高齢者と会話ロボット：会話の成立率についてのケーススタディ」、松本光太郎同研究所講師が、「ロボットはモノ？ヒト？：ロボット体験をフィールドワークする」と題して研究報告を行い、その後参加者と意見交換を行いました。

## 欧州非干渉散乱レーダー科学協会評議会を開催

●太陽地球環境研究所

太陽地球環境研究所は、5月31日(木)、6月1日(金)の2日間、名古屋国際会議場において、欧州非干渉散乱レーダー科学協会評議会を開催しました。

欧州非干渉散乱レーダー (EISCAT レーダー) 科学協会は1970年代に創設され、現在スカンジナビア北部やスヴァーバル島の4カ所に、全長120メートルのアンテナを始め6機のアンテナを設置し、世界第1級のレーダー観測や、極域超高層大気、太陽風の観測を行い、太陽地球系科学に多くの貢献をしてきています。現加盟国は、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、ドイツ、英国、日本と今年から正式加盟した中国の7カ国で、国際共同観測

を推進しています。日本は1990年当初から、同研究所を中心に北欧におけるレーダー計画の検討を開始し、1996年に国立極地研究所を代表機関として加盟しました。今年から同研究所も共同で代表機関となったため、同評議会を本学が開催することとなりました。

会議の開催に先立ち、平野総長からホストとして歓迎のあいさつがあり、引き続き、同協会の運営や将来計画等について熱心な検討と審議が行われました。

初日夜には、同評議会恒例の夕食会が行われ、各国の学術会議やアカデミーからの評議員等と懇親したり、国際協力等についての情報交換が行われる中、日本の加盟に大きな功績のあった松浦延夫本学名誉教授に対し、EISCATの発展に特段に功労のあった研究者に贈られる賞である「バイノンメダル」が授与されました。同メダルはこれまでに4名の方に授与されています。

参加者は、日本代表として、極地研究所及び本学から参加した2名を含む各国代表の評議員と、EISCAT協会本部の職員の総計18名であり、成功裡に終了しました。



EISCAT レーダーアンテナ



バイノンメダルを授与された松浦名誉教授(中央)と山本理事(左)、ブレック評議会議長(トロムソ大学教授)



## 2007年度第1、2回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センターは、5月31日(木)、第1回オープンセミナーを開催しました。

今回は、国際農林水産業研究センター研究員で、ニジェールの国際半乾燥熱帯作物研究所サヘルセンターにおいて長年、半乾燥熱帯地域における土壌肥沃度維持管理の研究を行ってきた林 慶一氏が、「在地の技術開発情報の理解から始まる西アフリカサヘル農業開発」と題して、年間降雨量が350mmの農耕限界に近い地域でのこれまでの研究

成果を報告し、農民の経済レベルに準じた技術開発とその普及を進めるやり方について熱く説明しました。

6月6日(水)には、第2回オープンセミナーが開催され、国際協力機構(JICA)国際協力専門員の富高元徳氏が、4年間滞在したウガンダで行った農業開発協力について発表し、農業協力案件の発掘・形成には、ウガンダ政府だけでなく、他の援助機関との援助協力が重要であり、国民の約8割の就労人口を占める農業の振興は、貧困削減のために欠かせないと指摘しました。



熱心に説明する林氏



質問に耳を傾ける富高氏

## 博物館が第71回特別講演会を開催

博物館は、6月9日(土)、博物館友の会との共催で、第71回特別講演会「ヒトの知覚と重力—スペースシャトル・エンデバー号での実験—」を開催しました。

講演会では、古賀一男エコトピア科学研究所教授から、宇宙空間における視覚安定性に関わる感覚相互作用の解明実験について、実際の映像やデータを使って説明がありました。普段は私たちがほとんど意識しない重力の作用について、低重力下のシャトル内でのヒトの動きや反応と比較

した話は興味深く、40名を超える参加者からは、実験についての質問も出されました。

古賀教授は、本学環境医学研究所附属宇宙医学実験センター(当時)において、「宇宙空間におけるヒトの感覚・運動の協応」の研究をしており、昨年、研究に使われた「全周体位傾斜装置」と実験関連資料が博物館に移管されました。スペースシャトル内では日本人初の搭乗科学者である毛利 衛博士を被験者として、低重力環境下での視覚と運動についての生理学的実験が、1992年のフライトで行われましたが、それに先立って行われた本学での地上実験で、同装置が使用されました。同装置は、博物館の常設展示として公開されます。



講演する古賀教授



全周体位傾斜装置

## 博物館野外観察園の見学会を開催

博物館は、6月2日(土)、野外観察園の見学会を開催しました。東山キャンパスの南西にある4,230㎡の緑地で、季節の花やドングリの木立を楽しめる同園は、昨年春より一般公開しており、今回の見学会は暑い日でしたが、30名の参加がありました。

まず、参加者は、同園に生えている珍しい植物について



熱心に説明を聞く参加者

解説を聞き、次に、研究用のため通常立ち入り禁止の場所へ入り、ミカワタヌキモやハッコウトクボ等の観察を行い、ドクダミやキク科の花は、全体で一輪の花に見えるけれど実は沢山の小さい花が集まって出来ていること、ミカワタヌキモは水中のプランクトン等を捕らえるための袋を持っていることなど、さまざまな植物の仕組みを、見たり、触ったりしながら学びました。その後、ドングリの小道を散策し、ドングリを拾いつつ、初夏の木陰を楽しみました。

散策の後は、同園で見た植物のミクロの姿を、実体顕微鏡で観察しました。参加者は、クロタネソウという園芸植物の花の中にある、蜜を出す特殊な器官を観察したり、ナワシログミの葉裏を覆う鱗のような形の毛に驚いたり、普段肉眼で眺めているものとは違う植物の構造に見入っていました。

博物館では、8月から始まる企画展「ふしぎ ふしぎ ミクロの美術館」の開催に合わせて、8月1日(水)、9月26日(水)にも、観察園の見学会を開く予定です。

## 「フラワーアレンジメント講座」を実施

●博物館

博物館は、6月16日(土)、第1回「フラワーアレンジメント講座」を実施しました。

同講座では、同館野外観察園の植物から毎月モチーフを選び、アレンジします。

6月は、ハラン (Aspidistra elatior Bl. ユリ科) をモチーフに、ガーベラ、スプレーバラ、ヒペリカム、ルリタマアザミ等を花材としてアレンジしました。

まず、講座の前に、参加者は、ハランがどのようにして生育しているかを確認するため野外観察園へ移動し、生育

環境を観察しました。その後、同館講義室にて、講師であるフローリストの草野博美氏から、花材の生け方について、資料に沿って丁寧な解説を受けつつ、熱心に制作に取り組みました。用意された花材の他に、参加者自身が野外観察園の中の植物を少し採取してアレンジをし、それぞれの個性が光る作品に仕上がりました。

第2回は7月21日(土)、第3回は8月18日(土)を予定しています。



講座の様子



参加者の作品

### 3.27 グダニスク医科系大学学長等

医学部・医学系研究科と学術交流協定を締結しているポーランド・グダニスク医科系大学学長、副学長及び若林 隆教授（本学名誉教授）が医学系研究科を訪問されることを機会に、表敬訪問されました。



### 4. 4 台湾・国立成功大学文学院院长等

今後の両大学の学術交流について、意見交換を行うことを目的に、本学を訪問されました。



### 4.25 台湾訪日団「亜東関係協会科学技術交流委員会」

今後の日台間の科学技術協力及び交流の促進、国際産学連携の推進などについて、意見交換を行うことを目的に、本学を訪問されました。



### 5. 8 南京大学海外教育学院院長

孔子学院国際会議（於 立命館大学）に出席された機会に、本学を訪問されました。



## 受賞者一覧

### 教員

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H18. 9.19	日本セラミックス協会第19回秋季シンポジウム シンポジウムポスター奨励賞	エコトピア科学研究所 助教授	坂本 渉	余語利信（エコトピア科学研究所教授）と 連名
H18.11.10	第3回P&Iパテントコンテスト“パテント・オブ・ザ・イヤー プロセス・テクノロジー部門”	エコトピア科学研究所助手	中塚 理	財満鎮明（大学院工学研究科教授）、 安田幸夫（本学名誉教授、高知工科大学総合 研究所教授）、酒井 朗（大学院工学研 究科助教授）土屋義規（株式会社東芝）と 連名
H19. 3. 5	2007 Polymer Physics Prize	大学院工学研究科講師	高野 敦志	川島 渉（大学院工学研究科 D1）、野呂篤史 （大学院工学研究科 D3）、五十野善信（長岡 技術科学大学教授）、田中信夫（エコトピア 科学研究所教授）、堂寺知成（京都大学大学 院工学研究科助教授）、松下裕秀（大学院工 学研究科教授）と連名
H19. 3.15	日本機械学会 会計計算力学部門 優秀講演賞	大学院工学研究科助手	奥村 大	
H19. 3.22	日本機械学会船井賞	大学院情報科学研究科 助教授	大岡 昌博	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H19. 3.23	精密工学会 2007年度春季大会学術講演会 「ベストプレゼンテーション賞」	大学院工学研究科助手	鈴木 教和	
H19. 3.26	日本化学会 第21回若い世代の特別講演会賞	大学院理学研究科助手	上野 隆史	
H19. 3.26	日本化学会 第21回若い世代の特別講演会賞	大学院理学研究科助手	若宮 淳志	
H19. 3.27	The International Human Frontier Science Program Organization Career Development Award	大学院理学研究科助手	平田 普三	
H19. 3.27	日本鉄鋼協会 学術記念賞（西山記念賞）	大学院工学研究科助教授	湯川 伸樹	
H19. 3.27	日本鉄鋼協会 学術記念賞（西山記念賞）	大学院工学研究科助教授	田川 哲哉	
H19. 3.27	日本鉄鋼協会 学術功績賞（学術功績賞）	大学院工学研究科教授	桑原 守	
H19. 3.27	日本鉄鋼協会 論文賞（澤村論文賞）	大学院工学研究科助手	劉 中柱	楊健（大学院工学研究科助手）、桑原 守 （大学院工学研究科教授）他2名と連名
H19. 3.27	Japan/UK GSC Symposium Lectureship	大学院工学研究科教授	石原 一彰	
H19. 3.28	応用物理学会 プラズマエレクトロニクス分科会 第5回プラズマエレクトロニクス賞	大学院工学研究科教授	豊田 浩孝	
H19. 3.28	第27回日本オペレーションズ・リサーチ学会 事例研究賞	大学院経済学研究科教授	高桑宗右工門	三輪冠奈（大学院経済学研究科研究生）と 連名
H19. 3.28	プラズマエレクトロニクス賞	大学院工学研究科教授	菅井 秀郎	豊田浩孝（大学院工学研究科助教授）と 連名
H19. 4. 6	日本機械学会賞 論文賞	大学院工学研究科教授	酒井 康彦	
H19. 4. 6	日本機械学会賞 論文賞	大学院工学研究科教授	山田 克彦	
H19. 4.10	第19回中小企業優秀新技術・新製品賞 産学官連携特別賞	大学院情報科学研究科教授	高田 広章	
H19. 4.11	東京テクノ・フォーラム21 第13回ゴールド・メダル賞	大学院理学研究科教授	山口 茂弘	
H19. 4.12	JJAP 編集貢献賞	大学院工学研究科准教授	佐々木浩一	
H19. 4.17	平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）	大学院工学研究科教授	谷本 正幸	
H19. 4.17	平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	大学院工学研究科教授	高井 吉明	岡島茂樹（中部大学工学部教授）、平松信康 （福岡大学理学部教授）と連名
H19. 4.17	平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）	大学院環境学研究科教授	福和 伸夫	
H19. 4.17	平成19年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	大学院理学研究科准教授	木下 俊則	
H19. 4.18	土木学会中部支部技術賞	大学院環境学研究科教授	山田健太郎	
H19. 4.19	日本化学会 第87回春季大会（2007）優秀講演賞	大学院工学研究科助教	加地 範匡	
H19. 4.27	みどりの学術賞	名誉教授	杉浦 昌弘	
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝重光章	名誉教授	飛田 武幸	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	島津 康男	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	松岡 理	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	堀 高夫	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝中綬章	名誉教授	山本 幸男	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の褒章 紫綬褒章	大学院理学研究科教授	福井 康雄	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 5.11	軽金属学会 軽金属功績賞	大学院工学研究科教授	金武 直幸	
H19. 5.11	日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門 ベストプレゼンテーション表彰	大学院工学研究科研究員	池内 真志	
H19. 5.16	2007年度日本神経学会賞学術部門	大学院医学系研究科准教授	松浦 徹	
H19. 5.17	Most Influential Paper over the Decade Award	大学院情報科学研究科教授	村瀬 洋	Vinod Vasudevan (Reliance Communications, India) と連名
H19. 5.17	石油学会 奨励賞	大学院工学研究科助教	清水 研一	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H19. 5.22	日本火山学会研究奨励賞	大学院環境学研究科助教	中道 治久	
H19. 5.22	日本コンクリート工学協会賞（論文賞）	大学院工学研究科教授	中村 光	国枝 稔（大学院工学研究科准教授）他2名と連名
H19. 5.25	社団法人電気学会 第16回業績賞	エコトピア科学研究所教授	大久保 仁	
H19. 5.25	社団法人電気学会 第63回電気学術振興賞 進歩賞	エコトピア科学研究所 客員教授	遠藤 奎将	
H19. 5.25	第21回交通工学研究会論文賞	大学院工学研究科准教授	中村 英樹	馬淵太樹（大学院工学研究科 D3）と連名
H19. 5.25	電気学会 電気学術振興賞 著作賞	大学院工学研究科教授	佐藤 一雄	
H19. 5.26	化学とマイクロ・ナノシステム研究会 ベストポスター賞	大学院工学研究科研究員	丸山 央峰	福田敏男（大学院工学研究科教授）、新井史人（東北大学大学院工学研究科教授）と連名
H19. 5.29	日本トライポロジー学会奨励賞	大学院工学研究科助教	伊藤伸太郎	
H19. 5.30	第60回中目文化賞	大学院理学研究科教授	上村 大輔	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 5.30	第60回中目文化賞	大学院医学系研究科教授	祖父江 元	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 5.30	高分子学会 高分子学会賞	大学院工学研究科教授	松下 裕秀	
H19. 5.30	高分子学会 高分子研究奨励賞	大学院工学研究科助教	永野 修作	
H19. 6. 3	中国留日同学会 日中友好事業基金賞	大学院工学研究科講師	劉 軍	
H19. 6.15	第8回「酵素応用シンポジウム」研究奨励賞	大学院理学研究科助教	上野 隆史	

## 事務職員・技術職員

受賞日	受賞名	所属・職名	受賞者	備考
H18.12. 1	全国共同利用情報基盤センター功績賞	情報連携基盤センター 技術専門職員	瀬川 午直	
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝双光章	元工学部事務部長	佐竹 健吾	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝双光章	元医学部附属病院放射線部 副診療放射線技師長	早川 紀和	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 4.29	春の叙勲 瑞宝単光章	元医学部附属病院看護部 看護師長	田口 昭子	詳細は本誌169号 p.5参照
H19. 5. 9	情報処理学会東海支部学生論文奨励賞	情報連携基盤センター 技術補佐員	笠 浩一朗	
H19. 5.11	愛知県看護功労章	医学部附属病院副看護部長	中条 育子	

## 学生

受賞日	受賞名	所属・学年	受賞者	備考
H18.11. 3	日本結晶成長学会講演奨励賞	大学院理学研究科 D3	勝野 弘康	
H18.12.10	第17回日本 MRS 学術シンポジウム奨励賞	大学院工学研究科 M1	岩田 麻希	志村哲生（エコトピア科学研究所助手）、坂本 渉（エコトピア科学研究所助教授）、余語利信（エコトピア科学研究所教授）と連名
H18.12.19	平成18年度表面技術若手研究者・技術者研究交流発表会 若手奨励賞	大学院工学研究科 M2	小田 将智	石崎貴裕（エコトピア科学研究所研究員）、齋藤永宏（大学院工学研究科助教授）、高井 治（エコトピア科学研究所教授）と連名
H19. 2.21	平成18年度中小企業懸賞論文準賞	経済学部4年	黒田麻友美	上杉真太郎（経済学部4年）、大橋一輝（経済学部4年）、何睦（経済学部3年）、服部 愛（経済学部3年）と連名
H19. 2.27	平成19年度表面技術協会進歩賞	エコトピア科学研究所 研究員	石崎 貴裕	
H19. 3. 1	電気学会東海支部長賞	工学部4年	山田 祥之	
H19. 3. 8	情報処理学会第69回全国大会学生奨励賞	大学院情報科学研究科 M1	近藤 真由	

## 受賞者一覧

受賞日	受賞名	所属・学年	受賞者	備考
H19. 3. 8	DIA2007研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	赤塚 久哉	高橋友和(日本学術振興会特別研究員)、井手一郎(大学院情報科学研究科助教授)、村瀬 洋(大学院情報科学研究科教授)と連名
H19. 3. 8	表面技術協会第13回学術奨励講演賞	大学院工学研究科M1	島津 徳文	尹龍燮(大学院工学研究科D3)、吉田敬典(大学院工学研究科M2)、難波直樹(工学部4年)、井上泰志(エコトピア科学研究所助教授)、齋藤永宏(大学院工学研究科助教授)、高井 治(エコトピア科学研究所教授)と連名
H19. 3. 8	表面技術協会第13回学術奨励講演賞	大学院工学研究科M1	西垣 拓	石崎貴裕(エコトピア科学研究所研究員)、齋藤永宏(大学院工学研究科助教授)、高井 治(エコトピア科学研究所教授)と連名
H19. 3. 8	DIA2007研究奨励賞	大学院情報科学研究科 M2	赤塚 久哉	高橋友和(日本学術振興会特別研究員)、井手一郎(大学院情報科学研究科助教授)、村瀬 洋(大学院情報科学研究科教授)と連名
H19. 3. 9	第1回グリーンサステナブルケミストリーアジア・オセアニア会議と第7回GSCシンポジウムの合同会議 ポスター賞	大学院工学研究科 M1	今泉 晴樹	板倉 剛(大学院工学研究科D3)、笹井 亮(エコトピア科学研究所助手)、伊藤秀章(エコトピア科学研究所教授)と連名
H19. 3.10	日本航空宇宙学会北部支部20周年記念講演会 Bast Presentation Award for Student	大学院工学研究科 特別研究学生	鈴木 康司	
H19. 3.15	マグネティックス技術委員会 研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	谷口 典隆	
H19. 3.20	精密工学会 第14回学生会員卒業研究発表講演会 最優秀講演賞	工学部4年	山路 文恵	
H19. 3.23	平成18年度日本化学会東海支部長賞	大学院工学研究科 M2	小田 将智	
H19. 3.23	(社)日本理学療法士協会 優秀賞	医学部保健学科4年	中島 将宏	
H19. 3.26	日本化学会第87回春季年会・学生講演賞	大学院理学研究科 D3	沖本 治哉	菅井俊樹(物質科学国際研究センター助手)、北浦 良(大学院理学研究科助手)、篠原久典(大学院理学研究科教授)と連名
H19. 3.26	日本化学会第87回春季年会・学生講演賞	大学院理学研究科 D3	安部 聡	
H19. 4. 6	日本機械学会賞(論文)	平成16年度本学修了生(三菱重工株式会社)	田中 伸彦	酒井康彦(大学院工学研究科教授)、山本 睦(株式会社豊田自動織機、平成16年度本学修了生)、久保 貴(エコトピア科学研究所助教授)と連名
H19. 4.16	日本植物病理学会 第2回学生優秀発表賞	大学院生命農学研究科 D2	石濱 伸明	川北一人(大学院農学研究科教授)、道家紀志(名誉教授)、吉岡博文(大学院生命農学研究科准教授)と連名
H19. 4.27	第18回学生森林技術研究論文コンテスト 日本森林技術協会理事長賞	大学院生命農学研究科 M1	鈴木 賢哉	
H19. 5.10	日本リモートセンシング学会優秀論文発表賞	平成18年度本学修了生	赤池 隆直	山口 靖(大学院環境学研究科教授)と連名
H19.5.10-12	IWJC-Korea Best Paper Award	大学院工学研究科 D2	尾崎 仁志	市岡礼慈(平成17年度本学修了生)、松浦隆志(大学院工学研究科M2)、沓名宗春(大学院工学研究科教授)と連名
H19. 5.18	電子情報通信学会無線通信システム研究会 無線通信システム研究活動奨励賞 学生の部	大学院工学研究科 D2	打田 良介	
H19. 5.22	American Geophysical Union, 2006 Fall General Assembly Student Paper Award	大学院理学研究科D1	坂口 歌織	
H19. 5.22	第12回計算工学講演会 グラフィックスアワード 優秀賞	大学院工学研究科 M2	鈴木 博貴	長田孝二(大学院工学研究科准教授)、酒井康彦(大学院工学研究科教授)他2名と連名
H19. 6. 8	電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞	大学院工学研究科 M2	梯 昌二	
H19. 6.14	第39回流体力学講演会 プレゼンテーション賞	大学院工学研究科 M1	関谷 洋平	

\*受賞者の所属・職名又は学年は、受賞当時

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
1 エコトピア科学研究所と住友電気工業が希少資源を再利用する技術を開発 大学内に共同研究拠点を今月開設	5.16 (水)	読売
2 医学系研究科と東邦ガスの共同実験で、「ミストサウナ」を使って入浴すると介助者の負担軽減につながることを実証	5.16 (水)	中日 (朝刊)
3 三重地震1ヵ月 生かせるか教訓：林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助教は「家具の固定や防災対策など大規模地震への準備を急ぐべきだ」と強調	5.16 (水)	日経 (朝刊)
4 医学部附属病院 患者414人分の情報を紛失	5.16 (水)	中日 (夕刊) 朝日 (夕刊) 毎日 (夕刊)
	5.17 (木)	日経 (朝刊) 読売
5 今、等身大のイスラームを知る意味：服部美奈・教育発達科学研究科准教授 多様な女性像 触れて感じて	5.17 (木)	朝日 (夕刊)
6 「体験型腎臓病教室」19日開催：松尾清一・医学部附属病院院長は「早期発見と専門医による治療が大事」と話す	5.18 (金)	朝日 (朝刊)
7 東海地方4月の地震：林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助教	5.18 (金)	読売
8 南山大学人類学博物館講座 7月21日開催：「土偶・人面土器から見た縄文人の心」 渡邊誠・本学名誉教授	5.18 (金)	中日 (夕刊)
9 名古屋市議会の議員提案：小野耕二・法学研究科教授 は「全会一致が得られない議員提出議案は、提案できないという慣例は廃止すべき」と話す	5.19 (土)	朝日 (朝刊)
10 ライトピアシンポジウム「高齢社会の認知症」：鈴木裕介・医学部附属病院助教 「支えが必要となる時」をテーマに講演	5.19 (土)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
11 「誰にでもわかる素粒子物理」公開講演会：丹羽公雄・理学研究科教授が講演	5.19 (土)	中日 (朝刊)
12 献体の顕彰式：約600人が参加 5大学を代表して濱口道成・医学部長が慰霊の言葉を述べる	5.19 (土)	中日 (朝刊)
13 本学、阪大、東大などのチームは、水星本体は微粒子と岩石からなることを解析	5.20 (日)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
	5.21 (月)	日刊工業
14 緊急地震速報 避難に活用：林能成・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター助教は「緊急地震速報の特性についてもっと国民が理解を深めるべきだ」と話す	5.21 (月)	中日 (朝刊)
15 はしか 東海地方で6大学6人感染：本学でも1人感染を確認	5.22 (火)	朝日 (朝刊) 他5社
	5.27 (日)	日経 (朝刊)
	5.28 (月)	中日 (夕刊)
	5.25 (金)	読売
	6. 1 (金)	日経 (朝刊) 他4社
16 国立大交付金 国立大85%が減額：本学は配分増加率4位	5.22 (火)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 日経 (朝刊) 読売
17 本学 調査・技術移転・知的財産管理などノンリサーチ分野のキャリアパスを提示して、就職実践につなげている	5.22 (火)	日刊工業
18 健康東海プラザ 特集医療相談：中尾昭公・医学系研究科教授 石黒直樹・医学系研究科教授	5.22 (火)	読売
19 時日記：小林さやかさん・本学学生 リクルーターに好印象	5.22 (火)	中日 (朝刊)
20 英語の悩みが解決！？：高木賢治さん・本学大学院生	5.22 (火)	中日 (朝刊)
21 東海学生陸上競技対抗選手権大会：中村高洋さん・本学学生 5000メートル1位	5.22 (火)	朝日 (夕刊)
22 本学 21日夜、北京で「北京名古屋大学同窓会」の設立大会開催：平野真一総長は「卒業後も留学生と連携することが長年の希望だった」と喜びを語る	5.23 (水)	中日 (朝刊)
23 学園レポート：県立岡崎高校 4月に本学と教育交流協定締結	5.23 (水)	読売
24 名大ギャラリー：長尾浩幸・本学非常勤講師 作品展「書物の光線」開催	5.23 (水)	朝日 (夕刊)
25 国際サロン「中国―大連から」1日開催：王国揮さん・本学大学院生	5.24 (木)	中日 (朝刊)
26 今年度の科学技術振興調整費 新規事業・研究課題：本学から「発展型女性研究者支援名大モデル」が採択される	5.24 (木)	日刊工業
27 「地球に優しい食卓」について考えるワークショップ 26日開催：動物写真家・高山博好さん・本学大学院生が企画	5.24 (木)	朝日 (朝刊)
28 老年学：愛知淑徳大学教授・井口昭久・本学名誉教授 「はしか」の記憶	5.24 (木)	朝日 (朝刊)
29 トップ対談：平野真一総長と北川薫・中京大学学長が、大学の果たす役割と大学選びのヒントを語る	5.24 (木)	日経 (朝刊)
30 近況心境：日本文化人類学会が「21世紀地球人類の危機と人類史」と題して、本学で研究大会を開く	5.24 (木)	朝日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
31 朝日カルチャーセンター：杉山直・理学研究科教授 「宇宙交響楽」、山本直人・文学研究科教授 「長野・山梨縄文の旅」	5.25 (金)	朝日 (朝刊)
32 中日新聞を読んで：中西久枝・国際開発研究科教授 環境と芸術、輝く多様性	5.27 (日)	中日 (朝刊)
33 「サイクリングで千の種みつけよう」26日開催：今回参加の親子連れら14人が、本学と名古屋市立大の学生らに引率されながら、自転車で千種区内の見どころを探す	5.27 (日)	中日 (朝刊)
34 主張：宮田隆司・副総長が大学の役割について語る	5.28 (月)	日刊工業
35 文科省「全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)」現場報告会 20日開催：中嶋哲彦・教育発達科学研究科教授は「個別の学校状況を知りたいためのテストであり、正確な学力の判断はできない」とコメント	5.28 (月)	中日 (朝刊)
36 名港100周年レガッタ 27日開催：今年で61回目の対阪大戦は、20秒41の差をつけて本学が勝利	5.28 (月)	朝日 (朝刊)
37 らんきんぐ：図書館の充実度 本学10位に留まる	5.28 (月)	朝日 (朝刊)
38 学生之新聞：創刊300号記念特集 学生300人に「将来」や「大学生活」などについてアンケートを実施	5.29 (火)	中日 (朝刊)
39 本学の分類学者など60人のチームが相模湾の生物を調査 4163種類の動植物を確認し、うち12%は新種であることを突き止める	5.29 (火)	中日 (夕刊)
40 国立大学法人財務ランキング：本学は12位	5.30 (火)	読売
41 中日健康サポートセミナー「メタボリックシンドロームについて」：大磯ユタカ・医学系研究科教授 室原豊明・医学系研究科教授	5.30 (火)	中日 (朝刊)
42 講演「憲法9条と沖縄―米軍再編をめぐる―」：森英樹・本学名誉教授	5.30 (火)	中日 (朝刊)
43 第60回中日文化賞贈呈式 30日開催：上村大輔・理学研究科教授、祖父江元・医学系研究科教授が受賞	5.30 (火)	中日 (夕刊)
44 マザック財団の研究助成金決定：樋野励・工学研究科講師が贈呈される	6. 2 (土)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊) 日刊工業
45 電波の日を記念した式典 1日開催：河口信夫・工学研究科准教授が表彰される	6. 2 (土)	中日 (朝刊)
46 名大祭実行委員が参加者や来場者に、はしかの予防接種や感染歴のない人は、来場を控えるようホームページで呼びかける	6. 2 (土) 6. 8 (金)	毎日 (朝刊) 朝日 (朝刊) 読売
47 病院の実力：本学 脳動脈瘤の本学治療実績74件	6. 3 (日)	読売
48 ニュースを問う 不意打ちだった能登半島地震：鈴木康弘・環境学研究科附属地震火山・防災研究センター教授は「日本には無数の活断層があり、大きな活断層地震は9年に1度のペースで起きている」と指摘 確率が低いから地震が起きないとは言えない	6. 3 (日)	中日 (朝刊)
49 伊藤秀章・本学名誉教授が委員長を務める「建設技術検討委員会」は、岡崎市の大型ゴミ処理施設計画の建設業者選定で、「書類不備」とした市の対応に抗議文を提出	6. 3 (日) 6. 4 (月) 6. 6 (水)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊) 朝日 (朝刊)
50 訃報：築島隆繁・本学名誉教授	6. 4 (月)	朝日 (朝刊) 他3社
51 研究室発：小松由紀夫・環境医学研究所教授 大脳皮質内の神経回路に焦点	6. 5 (火)	中日 (朝刊)
52 本学出身者設立のベンチャー企業(ユビグラフ)が、パソコンの画面をワイヤレスで他のパソコンなどに転送できる装置を開発	6. 5 (火)	日経 (朝刊)
53 名古屋市医師会市民公開講演会：後藤百万・医学系研究科教授が「炎症性腸疾患・過活動膀胱とその治療について」と題して講演	6. 6 (水)	中日 (朝刊)
54 本学と大分大学は、「第61回日本栄養・食糧学会大会」で、シジミ抽出物にコレステロール量を低下させる作用があることを発表	6. 6 (水)	サンケイ
55 柳澤聖・高等研究員特任講師、高橋隆・医学系研究科教授の研究グループは、肺がん手術後の25種類のたんぱく質の含有量で、再発の予測ができることを突き止める	6. 7 (木)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊) 読売 日刊工業
56 抵当証券会社「大和都市管財」グループの巨額詐欺事件：家森信善・経済学研究科教授は、「『理解できない金融商品は買わない』が原則だが、被害は起こり得ることとして、被害者を救う仕組みを国が検討するべき」と指摘	6. 7 (木)	読売
57 「第39回全日本大学駅伝東海地区選考会」16日開催：本学他13校が出場 11月の本大会に出場する2校を選出	6. 7 (木)	朝日 (朝刊)
58 博物館は7月21日まで「地球は玉手箱～誕生石の魅力～」と題して誕生石など世界各地から集めた約100種類の鉱物を展示 連動企画として、「親子対象フィールドセミナー 第1回地球教室・鉱物をさがそう」を開催	6. 7 (木) 6. 8 (金)	日経 (夕刊) 中日 (朝刊)
59 深津博・医学部附属病院放射線部准教授(NPO法人日本医療コンシェルジュ研究所理事長) 自らの経験から「医療現場にもコンシェルジュを」と育成に力を入れる	6. 8 (金)	中日 (朝刊)



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成19年5月16日～6月15日]

記事	月日	新聞等名
60 育児休暇中の母親対象「職場復帰準備セミナー」 7日開催：村瀬聡美・教育発達科学研究科教授は、「周囲の協力を得ながら職場復帰し、生き生きと働いてほしい」と呼びかける	6. 8 (金)	中日 (朝刊)
61 市橋克哉・法学研究科教授が会長を務める有識者懇話会で、「公共的団体」による防犯カメラ設置の指針案を公表する	6. 8 (金)	朝日 (朝刊)
62 「名古屋ゴルフ倶楽部和合コース」改修工事：西澤泰彦・環境学研究科准教授が婦人室兼貴賓室の建物の鑑定を依頼される	6. 8 (金)	朝日 (朝刊)
63 法科大学院合同説明会：本学と東海地区8校の法科大学院の紹介と講演会	6. 8 (金)	中日 (朝刊)
64 工学系10大学合同説明会：本学と東海地区9校が、工学部離れに歯止めをかけようと、受験生、保護者、教師向けに開催	6. 8 (金)	読売
65 元本学中国人留学生が「友好」携え日本一周の旅に出る	6. 8 (金)	中日 (夕刊)
66 青井啓悟・生命農学研究科教授、松見紀佳・生命農学研究科准教授、中村菜美子さん・本学大学院生はカレー色素のクルクミン生分解性プラスチックを作製することに成功	6. 9 (土)	日刊工業
67 写真が語る戦争：林能成、木村玲欧・両環境学研究科附属地震・火山防災研究センター助教は、昭和20年に起きた三河地震の様子を実際の体験者から聞き取る	6. 9 (土)	朝日 (朝刊)
68 東海スポーツ 8日：本学学生 バドミントン、ソフトテニスに参加	6. 9 (土)	朝日 (朝刊)
69 今津孝次郎・教育発達科学研究科教授は、今夏の教員採用試験の低倍率に「倍率が高い方が質の高い教員を採用できる。教員はやりがいのある仕事とアピールすることが必要」と話す	6.10 (日)	読売
70 夢むげんだい：学芸員・小林修二さん・本学理学部卒業生 星空ってキレイって感じてもらいたい	6.10 (日)	毎日 (朝刊)
71 附属図書館 「王権と社会－朝廷官人・真継家文書の世界」展を公開	6.12 (火)	中日 (朝刊)
72 本学 男女共同参画室 理系を目指す女子中高生向けに、「理系女性のワーキングスタイル」を作製 同室長・東村博子・生命農学研究科准教授は、「理系が好きなのはためらわず志してほしい」と呼びかける	6.12 (火)	中日 (朝刊)
73 東海近世文学会6月例会：河村真理子さん・本学大学院生が「熱田宮雀」を輪読	6.11 (月)	中日 (夕刊)
74 理学懇話会：「超弦理論の数理」 菅野浩明・多元数理科学研究科教授	6.12 (火)	中日 (朝刊)
75 中国語談話クラス：「芸能から生まれた流行語」 呂雷寧さん・本学大学院生	6.12 (火)	中日 (朝刊)
76 本学法学部の講義室で、「第9条」の創設者のチャールズ・オーバビー・オハイオ大名誉教授が、「国際平和と憲法9条」と題して講演	6.12 (火)	毎日 (朝刊)
77 訃報：佐藤自郎・本学名誉教授	6.12 (火)	朝日 (朝刊) 他3社
78 世界見て歩き：研修医・川島希・本学医学部卒業生 米フィラデルフィア小児病院で臨床実験	6.12 (火)	中日 (朝刊)
79 参議院文教科学委員会地方公聴会 12日開催：植田健男・教育学部附属中学・高等学校校長は、教育関連3法案に対し「教育の目標は人格形成であり、個性を育てるためにいろんな立場の人がチームを組むべきだ」と法案を批判	6.12 (火)	朝日 (夕刊)
80 浅岡顯・工学研究科教授が名古屋市の工事入札の談合防止のアドバイザーになる	6.13 (水)	朝日 (朝刊)
81 時のおもり：総合研究大学院大教授・池内了・本学名誉教授 加速度的「進歩」を見直す時	6.13 (水)	中日 (朝刊)
82 つながれとまつりチャレンジ・フォーラム「社会人が大学の門をくぐる時」：コーディネーターは渋谷典子さん・本学大学院生	6.13 (水)	中日 (朝刊)
83 名古屋手紙の会5月例会：塩村耕・文学研究科教授	6.13 (水)	中日 (夕刊)
84 本学 伊藤忠商事と協力して「病院情報データベース (DB)」を開発：全国20万件の医療機関の最新情報と、患者の症状に応じて診療機関を検索し、地図上に表記するシステムを構築	6.14 (木) 6.15 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 日刊工業
85 日中韓の歴史学者30人が、教科書を中心に互いの歴史観を比べる国際会議「歴史教育と和解」を来年9月開催：本学からは近藤孝弘・教育発達科学研究科准教授が参加	6.14 (木)	中日 (朝刊)
86 本学の工学部、理学部、農学部計5つの建物から18台のパソコンが盗まれる 内1台のパソコンには個人情報あり	6.15 (金)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊) 読売 朝日 (朝刊) 日経 (朝刊)
87 エコトピア科学研究所は、高圧電子顕微鏡を民間企業に開放すると発表 7月6日に説明会を開き、参加企業を募集	6.15 (金)	日刊工業
88 恐竜展「アジア発恐竜大陸新発見」 7月20日開催：福井康雄・理学研究科教授は、「展示を見るときも、地球全体の歴史の中で恐竜と人間のつながりを考えて欲しい」と語る	6.15 (金)	中日 (朝刊)

# 平成19年度名古屋大学公開講座

## ■全学企画

テ ー マ：「豊かな生活のために ー学問に何ができるのかー」  
 開講日時：平成19年8月21日(火)～10月9日(火)の原則火・木曜日(全15回)  
 18時00分～19時30分  
 会 場：名古屋大学野依記念学术交流館  
 修了証書：10回以上出席の方に修了証書を授与します。  
 募集定員：200名(先着順)  
 受 講 料：9,200円  
 申込期間：平成19年7月2日(月)～8月17日(金)  
 後 援：愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会  
 問合せ先：研究協力・国際部社会連携課  
 TEL：052-788-6144



回	テ ー マ	所属・職名	担当講師名
1	天気が悪くなると古傷が痛むって、ホント？	環境医学研究所准教授	さとう じゅん 佐藤 純
2	視覚の偏り、判断の偏り	情報メディア教育センター教授	とのいけ としゆき 外池 俊幸
3	文明の小区から	大学院多元数理科学研究科教授	おおさわ たけお 大沢 健夫
4	文学研究としての『源氏物語』の可能性	大学院文学研究科教授	たかはし とおる 高橋 亨
5	子どものこころの問題について	発達心理精神科学教育研究センター准教授	かね こ ひとし 金子 一史
6	世界の貧困撲滅のために	農学国際教育協力研究センター教授	まつもと てつお 松本 哲男
7	ソーシャル・イノベーションの実現に向けて	大学院環境学研究科准教授	わく た ゆきひろ 涌田 幸宏
8	「知」の楽しさをみんなのものにー博物館の役割と将来像	博物館教授	にしかわ てるあき 西川 輝昭
9	地球を変えた光と生命：地球と生命、分子の共進化	大学院理学研究科教授	いとう しげる 伊藤 繁
10	患者情報とプライバシー	医学部保健学科教授	おお た かつまさ 太田 勝正
11	市場経済と社会保障	大学院経済学研究科准教授	ふくざわ なおき 福澤 直樹
12	大学における豊かさと貧しさと	高等教育研究センター教授	なつめ たつや 夏目 達也
13	学問と内面的豊かさ、日本精神史の諸問題	大学院法学研究科教授	いそべ たかし 磯部 隆
14	農的生活の豊かさとコミュニケーション	大学院国際言語文化研究科教授	かとう さだみち 加藤 貞通
15	アジアの開発途上国における教育改革ー豊かな「学び」の可能性ー	大学院国際開発研究科准教授	きたむら ゆうと 北村 友人

※講師の都合又は天候により、一部日程が変更されることがあります。

■ラジオ放送公開講座「名大リレーセミナー」

テ ー マ：「豊かな生活のために ―学問に何ができるのか―」

放送日時：平成19年7月1日(日)～9月2日(日)の毎週日曜日(全10回) 18時30分～19時00分

放 送 局：東海ラジオ放送(1332KHz)

問合せ先：研究協力・国際部社会連携課 TEL：052-788-6144

回	テ ー マ	所属・職名	担当講師名
1	地球温暖化時の降雨変動と暮らし	地球水循環研究センター教授	うへだ ひろし 上田 博
2	「ひきこもり」―豊かさの影？	総合保健体躯科学センター准教授	つだ ひとし 津田 均
3	医工連携による新しい診断と治療	大学院工学研究科教授	ほんだ ひろゆき 本多 裕之
4	留学生を通して考える豊かな社会・教育・心	留学生センター准教授	たなか きょうこ 田中 京子
5	自らを知り、他人や社会を知る	大学院教育発達科学研究科教授	よしだ としかず 吉田 俊和
6	進化する情報検索	情報連携基盤センター准教授	まつばら しげき 松原 茂樹
7	豊かさをもたらす疾病―肥満と生活習慣病―	大学院医学系研究科准教授	やつや ひろし 八谷 寛
8	材料科学が拓く豊かな生活	エコトピア科学研究所教授	たかい おさむ 高井 治
9	豊かな生活を広げるために―歴史を解き明かす自然科学	年代測定総合研究センター教授	なかむら としお 中村 俊夫
10	環境共生社会を拓く木質科学	大学院生命農学研究科教授	ささき やすとし 佐々木康寿

■部局企画

講座等名	内 容	開催期間	会 場	対象・定員	受講料	問合せ先
途上国開発戦略の 基本と最先端	途上国の開発の現状、これまでの経過、今後の展望はどのようになっているのか、中間総括的な議論を提示します。	10/2～12/18 18:00～20:00	学内	市民一般 50名 要事前申込み	10,200円	大学院国際開発研究科 事務掛 052-789-4952
コーパスを利用した 言語研究のための テキスト処理入門	正規表現、表計算ソフト、UNIXのテキスト処理技術を身に付けると共に、情報抽出・加工の過程を段階ごとに確認しながら処理を進めることで、適切にデータ処理を行うセンスを養います。	9/1～9/4 9:00～16:00	学内	大学生、大学院生、 研究者、教師 18名 要事前申込み (7/23～27)	9,200円	大学院国際開発研究科 事務掛 052-789-4952
オープンカレッジ 自由奔放サイエンス	名古屋大学の各部局から10名の教員が、各自の研究テーマについて講演します。	9/8～3/15のうち 土曜日に計10回 10:00～12:00	経済学部 カンファレンス ホール	150名 要事前申込み	無料	大学院経済学研究科 エクステンション・サービス ecoextender@soec. nagoya-u.ac.jp
モノづくり市民公開講座	金属を使ったものづくりの基本を学ぶとともに、各自の創造力・モチベーションを生かした、独創的な作品作りを目指します。	①電子回路工作 8/3 ②メタルクラフト 8/9	創造工学 センター	①10名 ②15名 要事前申込み(～7/20)	300円	創造工学センター 052-789-5223
三菱 UFJ セントラルリー ス寄附講義「環境問題への 挑戦Ⅰ・Ⅱ」	グローバルに進行する地球環境問題について体系的に理解を深めるための講義等を行います。	10/1～1/28 (毎週月2時限)	IB 電子情報館 大講義室	一般市民 40名 要事前申込み(未定)	無料	大学院環境学研究科 大学院掛 052-789-4272
市民公開講座 「電気でファッションブル ライフ、あなたも今日から エコロジスト」	市民1人1人が、電気の理解を深め、電気の大切さを知り、日常死の場で実践できるよう定期的な講演を行います。	8/6 (10月にも開催予定)	ベンチャービジネス ラボラトリー	100名 事前申込み不要	無料	エコトピア科学研究所 052-789-5874
地球水循環研究センター 公開講演会	海洋循環に関する講演会を行います。	1/12	環境総合館 カンファレンス ホール	約100名 事前申込み不要	無料	地球水循環 研究センター 052-789-3433

※詳細はお問い合わせください。

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**4月10日(火)～7月21日(土)**

場 所：博物館展示室  
時 間：10時00分～16時00分  
休 館 日：日・月曜日  
入 場 料：無料

**第11回博物館企画展**  
**「地球は玉手箱～誕生石の魅力～」**

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

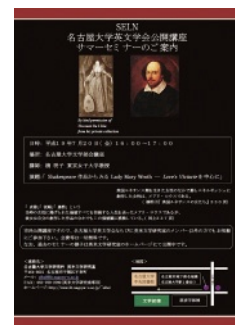
**7月20日(金)**

場 所：文学部会議室  
時 間：16時00分～17時00分  
入 場 料：無料

**文学研究科英文学会公開講座**  
**サマーセミナー**

講演題目：「Shakespeare 作品からみる  
Lady Mary Wroth - Love's Victorie を中心に」  
講 演 者：楠 明子（東京女子大学教授）

[問い合わせ先]  
文学研究科英米文学研究室  
eibei@lit.nagoya-u.ac.jp



**7月21日(土)**

場 所：遺伝子実験施設  
時 間：13時00分～16時00分  
内 容：「遺伝子を見てみよう」  
入 場 料：無料

**第6回 Jr. サイエンス教室**

[問い合わせ先]  
遺伝子実験施設 052-789-3086



**7月21日(土)、8月18日(土)**

場 所：博物館講義室及び  
博物館野外観察園  
時 間：13時00分～16時00分  
定 員：25名  
参 加 費：2,000円

**フラワーアレンジメント**  
講 師：草野博美氏（フローリスト）

[問い合わせ先]  
博物館事務室 052-789-5767

**7月22日(日)**

場 所：名古屋市科学館生命館 B2階  
サイエンスホール  
時 間：13時00分～17時00分

**公開市民向け講座**  
**「雪と氷の世界を通してみる『不都合な真実』」**

講演題目：「ヒマラヤの氷河の縮小」  
講 演 者：藤田耕史（環境学研究科准教授）  
講演題目：「微生物に解かされる氷河」  
講 演 者：竹内 望（千葉大学自然科学研究科准教授）  
講演題目：「ヒマラヤの氷河湖拡大」  
講 演 者：坂井亜規子（環境学研究科 COE 研究員）  
講演題目：「アイスコアから読み解く気候変動」  
講 演 者：植村 立（国立極地研究所学振特別研究員）  
講演題目：「温暖化と日本の積雪」  
講 演 者：山口 悟（防災科学技術研究所研究員）

[問い合わせ先]  
21世紀 COE 支援室 052-788-6247

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

7月23日(月)

場 所：高等総合研究館 6階  
カンファレンスホール (予定)  
時 間：17時00分～  
入 場 料：無料

## 第16回高等研究院セミナー

講 演 者 I：磯部 稔 (生命農学研究科教授)  
講演タイトル：「有機合成化学からケムバイオケム  
—全合成から活性発現分子機構解明に向けて—」  
講 演 者 II：近藤 滋 (理学研究科教授)  
講演タイトル：「動物の模様は細胞の相互作用が作る波である」



[問い合わせ先]

研究協力・国際部研究支援課高等研究院掛  
052-788-6051、6153

7月23日(月)

場 所：国際言語文化研究科棟 1階  
演習室  
時 間：16時30分～18時00分 (第7回)  
18時00分～19時30分 (第8回)  
入 場 料：無料

## メディアプロフェッショナル論講座

### オープンクラス第7回、第8回

内 容：危機に立つジャーナリズム (第7回)  
メディアリテラシーと映像コンテンツ制作の実際 (第8回)  
講 演 者：春名幹男 (国際言語文化研究科教授) (第7回)  
後藤明史 (情報メディア教育センター准教授) (第8回)

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科  
ヘイグ エドワード准教授 052-789-4789

7月23日(月)

場 所：中央図書館 5階多目的室  
時 間：18時00分～19時15分

## 附属図書館研究開発室

### 第26回オープンレクチャー

講 演 者：前田博子 (豊田工業高等専門学校講師)

[問い合わせ先]

附属図書館庶務掛 052-789-3667

7月25日(水)

場 所：野依記念物質科学研究館  
時 間：10時30分～12時00分  
入 場 場：無料

## 社会と科学

講演題目：「科学者とあたま—思考の逆説」  
講 演 者：森下伸也 (金城学院大学教授)

[問い合わせ先]

理学研究科  
小谷 明准教授 052-789-2954

7月26日(木)

場 所：国際開発研究科棟  
オーデトリウム  
時 間：13時00分～17時00分 (予定)

## 国際開発研究科就職ガイダンス

内 容：卒業生等の就職に関する講演等

[問い合わせ先]

国際開発研究科  
西川芳昭准教授 052-789-4964

7月27日(金)

場 所：IB 電子情報館 2階大講義室  
時 間：13時00分～17時00分  
対 象：大学等の教員、事務職員、その  
他大学等の関係者、著作権等に  
関する知識を必要とする人  
定 員：50名  
入 場 料：無料 (要事前申込み)  
共 催：独立行政法人  
メディア教育開発センター

## 教育著作権セミナー

### 「大学等における ICT 活用教育と著作権」

講 演 者：尾崎史郎 (独立行政法人メディア教育開発センター教授)

[問い合わせ先]

学務部学務企画課 052-789-2159

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 7月28日(土)

場 所：生命農学研究科附属農場  
「農業館」

時 間：14時00分～16時00分

定 員：60名

入 場 料：無料

## 地域貢献特別支援事業

### 「都市近郊の農業教育公園・講演会」

テ ー マ：「資源動物を知り、食といのちを考える」

講演題目：「魚類に学び魚類との共生を考える」

講 演 者：宗宮弘明（生命農学研究科教授）

[問い合わせ先]

生命農学研究科附属農場 0561-37-0210

## 7月28日(土)、29日(日)

場 所：医学部保健学科

時 間：10時30分～16時10分（7/28）、

10時00分～15時40分（7/29）

受 講 料：6,200円（要事前申込み）

## 公開講座「健康開発のための運動基礎理論」

[問い合わせ先]

総合保健体育科学センター事務室

052-789-3946

## 8月1日(水)～9月29日(土)

場 所：博物館展示室

時 間：10時00分～16時00分

休 館 日：日・月曜日、8/14臨時閉館

入 場 料：無料

## 第12回博物館企画展

### 「ふしぎふしぎミクロの美術館

### ～電子顕微鏡で見るいきものの世界～



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 8月1日(水)

場 所：博物館野外観察園

時 間：10時30分～12時00分

参 加 費：無料

## 博物館野外観察園見学会

案 内：西田佐知子（博物館助教）

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 8月4日(土)～5日(日)

場 所：生物機能開発利用研究センター

時 間：10時00分～16時00分

受 講 料：2,500円

対 象：社会人及び学生（高校生以上）

定 員：約15名

（応募者多数の場合は抽選）

## 生物機能開発利用研究センター

### 公開実験講座2007

### 「バイオサイエンス・バイオテクノロジーを体験する」

講演内容：現代生物学についての正しい知識を身につけてもらうことを目的に、実際に手を動かして「体験」してもらう公開実験講座です。

コース1：「細胞の顔、糖鎖を見る」

2：「自分の遺伝子を見てみよう」

3：「コメの食味とDNA」

[問い合わせ先]

生物機能開発利用研究センター

052-789-5194

## 8月8日(水)～10日(金)

場 所：東山キャンパス、  
大幸キャンパス  
（医学部保健学科）

## オープンキャンパス2007

内 容：名古屋大学へ入学を希望する方々に、本学の教育研究の紹介や施設見学を通じて、進学のための目的意識を持っていただくための企画です。

8月8日(水) 13時00分～ 経済学部、工学部

8月9日(木) 13時00分～ 教育学部、法学部、情報文化学部、農学部

8月9日(金) 9時30分～ 医学部医学科

10時00分～ 医学部保健学科

13時00分～ 文学部、理学部

[問い合わせ先]

学務部入試課 052-789-5765



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 8月8日(水)～10日(金)

場 所：理学部1号館509号室  
 時 間：10時00分～16時40分 (8/8)、  
 10時30分～16時40分 (8/9)、  
 10時30分～11時45分 (8/10)  
 入 場 料：無料

## 平成19年度数学アゴラ (夏季集中コース)

内 容：数学とその応用に興味を持つ高校生及び高校教員を対象とした講演会  
 講 演 者：浪川幸彦 (多元数理科学研究科教授)  
 津川光太郎 (同研究科准教授)  
 坂内健一 (同研究科助教)

[問い合わせ先]  
 多元数理科学研究科数学アゴラ係  
 052-789-5602

## 8月11日(土)

場 所：博物館講義室  
 時 間：14時00分～15時30分  
 入 場 料：無料

## 第74回博物館特別講演会

講演題目：「放散虫のかたち」  
 講 演 者：松岡 篤 (新潟大学教授)

[問い合わせ先]  
 博物館事務室 052-789-5767

## 8月25日(土)～26日(日)

場 所：長良川流域  
 時 間：8時00分 (8/25)  
 ～17時00分 (8/26) (1泊2日)  
 定 員：30名  
 対 象：小学3年生～中学3年生と  
 その保護者

## 地球教室 (親子対象フィールドセミナー)

[問い合わせ先]  
 博物館事務室 052-789-5767

### 【訂正とお詫び】

名大トピックス No.169 (2007年6月発行) の4ページおよび20ページに誤りがありましたので、深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。申し訳ありませんでした。

4ページ 名誉教授一覧右下

〔誤〕 大学院環境学研究科 三井斌友

〔正〕 大学院情報科学研究科 三井斌友

20ページ 写真キャプション左下

〔誤〕 高校生に説明する足立博物館長

〔正〕 高校生に説明する足立前博物館長

名大トピックス No.170 平成19年7月17日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/topics/>) でもご覧いただけます。

### 表紙

山の上グラウンドで行われた四日市大戦の様子。  
 (緑のユニフォームがアメリカンフットボール部 GRAMPUS)  
 (平成19年5月4日)



## 63

### たきがわゆきとき 瀧川文庫—瀧川幸辰博士の蔵書—

名古屋大学附属図書館では、瀧川幸辰博士の膨大な蔵書「瀧川文庫」を所蔵し、研究利用に供しています。

瀧川幸辰博士（1891-1962）は、京都（帝国）大学法学部教授、戦後は同大学総長となった刑法学者です。1933（昭和8）年、政府は著書を発売禁止にしたうえ、瀧川自身も辞めさせようとしていました。瀧川は大学の教官や学生、全国の支持者とともにこれに抵抗しますが、辞職をよぎなくされました。ファシズムによる思想弾圧の端緒として教科書にもとりあげられる、いわゆる瀧川事件です。

その瀧川の蔵書が、なぜ生前に特別な関係のなかった名大に所蔵されることになったのでしょうか。

瀧川と長男の瀧川春雄阪大教授（のち大阪高裁判事）は、これらを公共の図書館に一括して寄贈し、広く研究者の利用に供したいと強く希望していました。2人の死後、ご遺族はその遺志をはたすべく、受け入れ先をさがしはじめました。

当初ご遺族は、瀧川父子と親交のあった団藤重光博士（最高裁判事）を通じて最高裁判所に申し入れましたが、

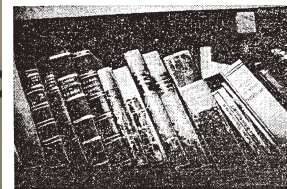
法律書だけならば可能との回答でした。しかし、それでは遺志に反することになります。そこで団藤博士は、直弟子の大塚仁名大法学部教授（現名誉教授）を紹介し、1983（昭和58）年に名大法学部へ一括寄贈のはこびとなったのでした。その後、2005（平成17）年度に中央図書館へ移管され、利用受付を法学図書室がおこなっています。

この文庫は、約1万冊の和書、約3,400冊の洋書、364の和洋雑誌などからなっています。とりわけ瀧川が戦前のドイツ留学時代に買い集めた洋書は、第2次世界大戦で多くの書物を失ったドイツにおいても入手が困難なきわめて貴重なものです。和書の多くは社会・人文科学書で、創立が遅く戦前の文献が多いとはいえ名大の蔵書をおぎなうとともに、瀧川の学識と教養の広さをうかがうことができます。また、手稿やスクラップ、遺品などの個人資料は法学図書室に保存されています。

瀧川文庫は、その学術的価値と同時に、瀧川幸辰博士を語る資料として、長く保存されていくべきものと思います。



## 抵抗の遺産 いま自由の学徒に



名大に寄贈されることになった瀧川蔵書の一部

「抵抗の遺産」とは、瀧川幸辰博士の蔵書のことです。瀧川博士は、戦前戦中にかけて、自由主義の思想を堅持し、ファシズムの弾圧に抵抗しました。その蔵書には、戦前のドイツ留学時代に買い集めた洋書をはじめ、和書、雑誌など約1万冊に達します。戦後、瀧川博士は長男の春雄とともに、この蔵書を公共の図書館に一括して寄贈することを希望しました。しかし、当時の政府は著書の発売を禁止し、瀧川博士自身も辞職を迫られました。瀧川博士は、全国の支持者とともにこれに抵抗しましたが、辞職をよぎなくされました。瀧川博士の蔵書が、名大に寄贈されることになったのは、1983年（昭和58年）のことです。当時、名大の法学部教授であった大塚仁博士（現名誉教授）が、瀧川博士の蔵書を法学部へ一括寄贈するのをはかりました。その後、2005年（平成17年）に中央図書館へ移管され、現在、法学図書室で保管されています。この蔵書は、瀧川博士の学識と教養の広さをうかがうことができ、また、戦前のドイツ留学時代に買い集めた洋書は、第2次世界大戦で多くの書物を失ったドイツにおいても入手が困難なきわめて貴重なものです。和書の多くは社会・人文科学書で、創立が遅く戦前の文献が多いとはいえ名大の蔵書をおぎなうとともに、瀧川の学識と教養の広さをうかがうことができます。また、手稿やスクラップ、遺品などの個人資料は法学図書室に保存されています。



団藤重光博士

## 瀧川蔵書二万冊 そっくり名大に寄贈

瀧川幸辰博士の蔵書が、名大に寄贈されることになったのは、1983年（昭和58年）のことです。当時、名大の法学部教授であった大塚仁博士（現名誉教授）が、瀧川博士の蔵書を法学部へ一括寄贈するのをはかりました。その後、2005年（平成17年）に中央図書館へ移管され、現在、法学図書室で保管されています。この蔵書は、瀧川博士の学識と教養の広さをうかがうことができ、また、戦前のドイツ留学時代に買い集めた洋書は、第2次世界大戦で多くの書物を失ったドイツにおいても入手が困難なきわめて貴重なものです。和書の多くは社会・人文科学書で、創立が遅く戦前の文献が多いとはいえ名大の蔵書をおぎなうとともに、瀧川の学識と教養の広さをうかがうことができます。また、手稿やスクラップ、遺品などの個人資料は法学図書室に保存されています。

1 | 2 | 3

- 1 瀧川幸辰博士（瀧川文庫より）。京都帝国大学辞職後は、研究活動を続けると同時に弁護士として活動した。敗戦後、京大に復職。
- 2 瀧川文庫。法学部によって整理され、『瀧川文庫目録』（全3冊）が刊行された。現在、図書は中央図書館1階に配架されている。
- 3 瀧川の蔵書が名大へ寄贈されることを報じる『中日新聞』（1983年4月16日夕刊）。

### 弾圧事件のメモなど 未公開の資料も

団藤判事が遺族との縁を結ぶ